

富士山麓の湧水の 「科学」と「恵み」

— 三島の大地と生活を潤す水 —

Mt.Fuji
World Heritage Seminar

日時

令和元年

8月12日(月:振休)

13:30~16:00 (開場13:00)

受講料無料 (定員150名・先着順)

会場

三島市民生涯学習センター 3階 講義室
(三島市大宮町1丁目8番38号)

アクセス JR東海道新幹線・JR東海道本線・伊豆箱根鉄道駿豆線
三島駅下車 徒歩約7分

駐車場 施設利用車専用駐車場(台数には限りがあります)
最初の2時間までは無料、以後30分毎に100円
(受付で駐車券を御提示ください)
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

申込

前日(8月11日(日))までに氏名・住所・年齢・連絡先・参加人数を、電話又はFAXで静岡県富士山世界遺産センターまで御連絡ください。

電話 0544-21-3776 (9:00~17:00 (7・8月は18:00))

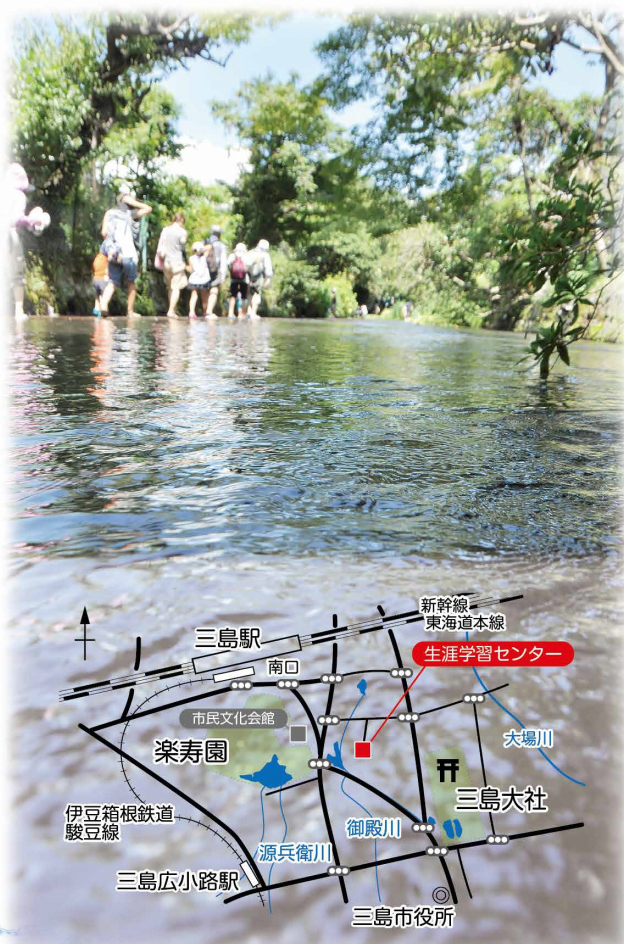
FAX 0544-23-6800

※事前お申込みがない場合でも、当日空席があれば聴講いただけます。

主催：静岡県・三島市



静岡県富士山世界遺産センター



静岡県では、富士山世界遺産登録を契機に、「富士山学」の構築を目指し、富士山や世界の高山・名山に関する国際的、学際的、総合的な調査研究を進めています。富士山世界遺産センターでは、平成27年度より富士山世界遺産セミナーを開催し、富士山の自然、歴史・民族、文化・芸術に係る研究成果や、富士山を囲む各地域と富士山とのつながりを表す様々な話題を提供してまいりました。

第9回となる今回は、下記のとおり、「富士山麓の湧水の「科学」と「恵み」—三島の大地と生活を潤す水—」と題した公開シンポジウムを開催します。

富士山麓の湧水の「科学」と「恵み」

— 三島の大地と生活を潤す水 —

静岡県東部の三島市とその周辺は、箱根山と愛鷹山に挟まれ、富士山麓から流れ出る黄瀬川の下流部に位置します。これらの街中には至る所に湧水があり、多くの泉を見ることができます。これらの湧水は、富士山周辺に降った多量の雨水が地下に浸透し、富士山の噴火に関連した地質構造を反映して当地に湧出したものとされています。それらは清らかな景観を形成し、安らぎの場を形成することによって多くの人の関心を引き付けてきました。また、豊富できれいな水を飲料水として提供し、さらにそれを利用した産業が発達することによって、地域住民に多くの潤いを与えてきました。

本セミナーでは、「科学」と「恵み」をテーマに、その両面からみた三島の湧水の特徴について紹介したいと思います。

■ プログラム

13:00 開場・受付

13:30~13:35

開会挨拶：静岡県富士山世界遺産センター
副館長 落合 徹

13:35~13:45

開催市挨拶：三島市市長 豊岡 武士 様

13:45~14:05

講演①：富士山の成り立ちと三島周辺の地質の特徴
講師：小林 淳 准教授
(静岡県富士山世界遺産センター)

14:05~14:50

講演②：富士山麓の湧水の科学的特徴：起源と年代
講師：小野 昌彦 研究員
(国研)産業技術総合研究所 地質調査総合センター
地質調査総合センター 地質調査環境研究部門)

(休憩)

15:00~15:45

講演③：湧水が地域に与えた恵み
講師：鈴木 雄介 専任研究員
(伊豆半島ジオパーク推進協議会)

15:45~16:00

質疑応答

16:00 閉会

■ 講師紹介

小林 淳 (こばやし こと)

静岡県富士山世界遺産センター 准教授

民間地質調査会社での勤務後、首都大学東京火山災害研究センター特任准教授を経て、今年度より現職。専門は火山地質学・第四紀地形地質学。

静岡大学理学部での卒業研究として、三島市周辺に分布する箱根・富士山の噴火堆積物の観察を始めたことをきっかけに、これまで、箱根火山を中心に富士火山や伊豆半島・伊豆諸島の火山等の噴火史研究を地道に続けている。これらの研究成果は火山防災マップの基礎データとして活用されている。現在は、富士火山の噴火が人々の「富士山観」や生活にどのような影響を与えてきたかについて関心をもっている。

小野 昌彦 (おのまさひこ)

(国研)産業技術総合研究所 地質調査総合センター地質調査環境研究部門 地下水研究グループ 研究員

熊本大学イノベーション推進機構、その後、産業技術総合研究所の特別研究員を経て現職。専門は水文学(すいもんがく)。

熊本大学での在学・在職時には、ラドン等の化学成分を用いて海岸や湖岸に湧き出す地下水の分布やその量を明らかにする研究を行った。産業技術総合研究所では、富士山周辺における地下水の情報をまとめた地図(水文環境図)の作成に取り組むとともに、静岡県環境衛生科学研究所と共同で駿河湾の海底湧水の研究を進めている。現在は安倍川や大井川流域における地下水の研究を進めている。

鈴木 雄介 (すずきゆうすけ)

伊豆半島ジオパーク推進協議会事務局 専任研究員

民間測量会社での勤務を経て現職。専門は火山・防災。三島市出身。

静岡大学理学部での卒業研究として、富士山北西麓の青木ヶ原をつくった西暦864年貞観噴火をテーマに地質調査と古記録の両面から噴火推移の実態を詳細に明らかにした。その後も日本各地の火山の調査を行い、火山ハザードマップ等の作成に携わった。

現在は、火山に関する豊富な知識と多種GIS技術を駆使し、伊豆半島ジオパークの学術面の支援や専門家と地域をつなぐ役割を担っている。NHK『プラタモリ』の案内人としても登場した。主な著書として、『伊豆半島ジオパークトレッキングガイド—伊豆の山歩き海歩き—』(共著)(静岡新聞社)がある。